

REFINITIV LIPPER LEADERS

Lipper Leaders Rating System (リップパー・リーダー・レーティング・システム) の概要

概要

Lipper Leaders Rating System (リップパー・リーダー・レーティング・システム) は、投資家や投資アドバイザーの皆様の指南役として、個々の投資スタイルや投資目標に適したファンド選別を支援するツールキットです。Lipper Leaders Rating System は投資家の皆様の立場に立った基準を採用することで、元本保全性だけでなく、収益一貫性や優れたリターンによる資産形成など、投資目標に適したファンドを簡単明瞭に提示します。Lipper の評価システムには、それぞれの評価基準を組み合わせて使用できる利点があります。これらの評価基準を組み合わせることで、個々の投資家が求める特性に沿ったファンドを特定できます。この評価では、明確な定義基準に照らしてファンドを分析する極めて高度な手法が採用されています。それぞれのファンドを類似ファンドと比較し、真に優れたファンドのみに Lipper Leader の評価を付与します。トータル・リターン (Total Return) や経費率 (Expense) などの指標に基づいて同分類のファンド・グループ内でファンドを評価し、上位 20% のファンドには「Lipper Leaders」、次の上位 20% のファンドには「4」、中間の 20% のファンドには「3」、次の 20% のファンドには「2」、最下位の 20% のファンドには「1」の評価を付与します。

Lipper Leader の評価は、十分な知識に基づいて投資判断を下す上で必要な情報や視点を提供することを目的としており、将来のパフォーマンスを予測するものではありません。

評価は毎月変更され、3年、5年、10年、さらに全期間の平均評価である「総合 (Overall)」の各評価期間で算出されます。「総合」の評価は、3年、5年、および10年 (データが存在する場合) の期間における各指標のパフォーマンス・ランクを均等加重平均して算出します。

Lipper Ratings のトータル・リターン (Total Return) 評価

Lipper Ratings のトータル・リターン (総合収益性) 評価は、ファンドの過去の総合収益率を、同分類のファンド・グループと比較して示します。

トータル・リターン評価で Lipper Leader となったファンドは、リスクを考慮せずに最大のリターンを求める投資家に最適な選択肢となりえます。この評価基準だけでは、ダウンサイド・リスクの回避を求める投資家には不十分となる可能性があります。リスク回避志向がより強い投資家の場合、トータル・リターン評価に元本保全性やコンシスタント・リターンの評価を加味し、リスクとリターンのトレードオフを判断することができます。

Lipper Ratings のコンシスタント・リターン (Consistent Return) 評価

Lipper Ratings のコンシスタント・リターン (収益一貫性) 評価は、ファンドの過去のリスク調整後リターンを、同分類のファンド・グループと比較して示します。コンシスタント・リターン評価で Lipper Leader となったファンドは、同分類のファンド・グループの中で収益が継続的に一貫しているファンドを重視する投資家に最適な選択肢となりえます。但し、分類グループによっては、他グループよりも変動しやすいため、高ボラティリティのグループに属するファンドは、コンシスタント・リターン評価で Lipper Leader となっても、短期投資を目的とする投資家や、リスク許容度が低い投資家には適さない可能性がありますので注意が必要です。

Lipper Ratings の元本保全性 (Preservation) 評価

Lipper Ratings の元本保全性評価は、ファンドの過去の損失回避度を、同一資産クラス内の他ファンドと比較して示します。但し、株式型ファンドはミックスアセット型ファンドや債券型ファンドと比べて歴史的にボラティリティが高いため、ボラティリティが比較的高い資産クラスに属するファンドは、元本保全性の評価で Lipper Leader となっても、短期投資を目的とする投資家や、リスク許容度が低い投資家には適さない可能性がありますので注意が必要です。

Lipper Ratings の経費率 (Expense) 評価

Lipper Ratings の経費率評価は、同様の手数料体系をもつファンド・グループと比較して、経費を低く抑えているファンドを示します。米国以外を本籍地とするファンドの場合、手数料体系を考慮していません。経費率評価で Lipper Leader となったファンドは、総コストを最小限に抑えたい投資家に最適な選択肢となりえます。また、トータル・リターンやコンシスタント・リターンの評価を加味し、平均以上のパフォーマンスかつ平均以下のコストとなっているファンドを特定することができます。

Lipper Ratings の租税効率 (Tax Efficiency) 評価

Lipper Ratings の租税効率評価は、ファンドの課税繰り延べ効果を、同分類のファンド・グループと比較して示します。租税効率評価で Lipper Leader となったファンドは、確定給付型年金や退職年金口座以外でファンドを保有し、租税コストを低く抑えたい投資家に最適な選択肢となりえます。**本評価は、米国のみ対象となります。**

使用例

右に示した使用例は、説明のみを目的として作成されたものです。すべての使用例を網羅したものではなく、短期、中期、長期の投資タイプのすべてを示したものではありません。Lipper Leaders ツールの強みは、各種の評価基準を用いて、個々の投資目標に合う水準を絞り込むことができる点にあります。

短期的なゴールを考える投資家にとっては、元本安全性が最大の関心事となります。その場合、元本安全性の評価で Lipper Leader に格付けされたファンドを検討するでしょう。また、こうした短期の投資目的の投資の場合は租税効率と経費率も重視し、Lipper Leaders「経費率」や「租税効率」の評価を組み合わせるケースもあります。

投資家はこれらの Lipper Ratings を用いることにより、個々が重視する基準に基づいて投資対象をスクリーニングすることができます。たとえば投資家 A の場合、第一に元本安全性、その次に租税効率と経費率を重視しているため、元本安全性で Lipper Leader に選出され、かつ租税効率および経費率で 3 以上の評価を得たファンドをスクリーニングすることができます。

投資家 A: 選定基準



投資家 A の選定基準を満たすファンドの例

ファンド A



ファンド B



使用例

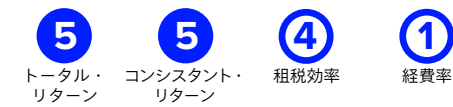
投資家 B は、「支払った対価に応じたリターンを得られる」と考える長期投資家で、比較的高い運用管理手数料を支払うことも厭わず、課税口座で運用しています。この場合、経費率の評価が 1 または 2 のファンドもスクリーニングの対象になります。パフォーマンスを比較的重視する傾向があるため、トータル・リターンやコンシスタント・リターンの Lipper Leaders に選出されたファンドを選定します。投資家 B は税金を低く抑えたいため、租税効率で上位の評価を得たファンドもスクリーニングの対象になります。

投資家 B: 選定基準

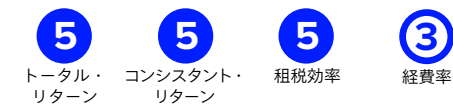


投資家 B の選定基準を満たすファンドの例

ファンド A



ファンド B



Lipper Ratings のトータル・リターン (Total Return) 評価

概要

トータル・リターン (総合収益性) は、主に投資アドバイザーおよび個人投資家の意思決定を支援する指標です。

トータル・リターンとは経費控除後の収益を指しており、分配金の再投資分を含みます。これはパフォーマンス評価で広く採用されている指標であり、現代ポートフォリオ理論 (MPT) のリスクとリターンのトレードオフ関係でも考慮されています。モメンタム投資を行う個人投資家は、トータル・リターンを主たるスクリーニング手法として使用しています。

Lipper Ratings のトータル・リターン評価は、単独またはその他の Lipper 評価と組み合わせて使用できます。

算出方法および評価

Lipper Ratings のトータル・リターン評価は、ファンドの過去の総合収益率を、同分類のファンド・グループと比較して示します。トータル・リターンの評価は、Lipper 分類のうち、5本以上のファンドが存在する分類を評価対象とし、株式ファンドと債券ファンドの両方で算出されます (大型株コア、一般米国債など)。格付けは毎月変更され、3年、5年、10年、さらに全期間の平均評価である「総合 (Overall)」の各評価期間で算出されます。「総合」の評価は、3年、5年、および10年 (データが存在する場合) の期間におけるトータル・リターンのパーセンタイル・ランクを均等加重平均して算出します。各分類の上位20%のファンドには「トータル・リターンの Lipper Leaders」、次の上位20%のファンドには「4」、中間の20%のファンドには「3」、その次の20%のファンドには「2」、最下位の20%のファンドには「1」の評価を付与します。

Lipper Ratings のコンシスタント・リターン (Consistent Return) 評価

概要

コンシスタント・リターン (収益一貫性) 指標は、現在市場で利用可能な他の指標に比べて、リスク調整後パフォーマンスをより的確に反映します。各ファンド分類について、短期および長期のリスク調整後パフォーマンスを考慮します。同指標は、実効リターンに基づき算出されます。実効リターンとは、さまざまな保有期間におけるリスク調整後リターンです (日次、週次、月次、および/または年次で測定)。

算出方法および評価

Lipper Ratings のコンシスタント・リターン (収益一貫性) 評価は、ファンドの過去のリスク調整後リターンを、同分類のファンド・グループと比較して示します。コンシスタント・リターンの評価は、Lipper 分類のうち、5本以上のファンドが存在する分類を評価対象とし、株式ファンドと債券ファンドの両方で算出されます (大型株コア、一般米国債など)。格付けは毎月変更され、3年、5年、10年、さらに全期間の平均評価である「総合 (Overall)」の各評価期間で算出されます。「総合」の評価は、3年、5年、および10年 (データが存在する場合) の期間におけるコンシスタント・リターンのパーセンタイル・ランクを均等加重平均して算出します。各分類の上位20%のファンドには「コンシスタント・リターンの Lipper Leaders」、次の上位20%のファンドには「4」、中間の20%のファンドには「3」、その次の20%のファンドには「2」、最下位の20%のファンドには「1」の評価を付与します。

Lipper Ratings の元本保全性 (Preservation) 評価

概要

投資判断において確実な損失回避を重視する投資家にとっては、シャープ・レシオなどの一般的な指標は有用性があまり高くないといえます。元本保全性評価は、独自の1パラメーター指標でダウンサイド・リスクを測定することで、投資家のリスク回避度に応じた意思決定を支援します。

元本の保全

元本保全性の評価は、過去3年間、5年間、および10年間におけるマイナスの月次リターンの合計値を示します。

この指標は、「リスク」を損失発生の可能性と捉える投資家が多い点を考慮し、リターンが目標を下回ることもよりマイナスとなることを不安視する投資家を想定して設計されています。

他の Lipper 指標と異なり、元本保全性指標は、投資分類レベルでなく、3種類の幅広い資産クラス (株式ファンド、混合型ファンド、債券ファンド) から算出されます。

算出方法および評価

Lipper Ratings の元本保全性評価は、ファンドの過去の損失回避度を、同一資産クラス内の他ファンドと比較して示します。元本保全性の評価は、株式ファンド、混合型ファンド、および債券ファンドの3種類の幅広い資産クラスから算出されます (例えば、株式ファンドには米国ダイバーシファイド、セクター、および世界株式ファンドが含まれます)。格付けは毎月変更され、3年、5年、10年、さらに全期間の平均評価である「総合」の各評価期間で算出されます。総合の数値は、3年、5年、および10年 (データが存在する場合) の期間における元本保全性のパーセンタイル・ランクを均等加重平均して算出します。各分類の上位20%のファンドには「元本保全性の Lipper Leaders」、次の上位20%のファンドには「4」、中間の20%のファンドには「3」、その次の20%のファンドには「2」、最下位の20%のファンドには「1」の評価を付与します。

Lipper Ratings の租税効率 (Tax Efficiency) 評価

概要

租税効率指標は主に、投資アドバイザーおよび個人投資家向けの意思決定支援ツールです。同分類のファンド・グループ内での相対的な租税効率に基づいて投資信託を評価するための指標です。

ここ数年、投資信託のリターンに対する租税の影響への注目が高まっており、米証券取引委員会 (SEC) や CFA 協会は、推奨される租税効率の算出方法をまとめた資料を発表しています。

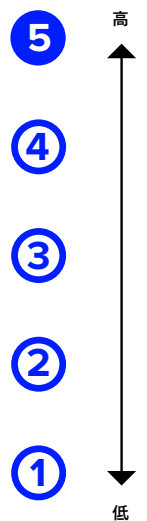
相対資産

Lipper は上記の推奨算出方法のうち、相対資産を採用し、租税効率を測る指標としています。Lipper は過去3年、5年、10年の評価期間で相対資産を算出しています。相対資産の定義は次のとおりです。

相対資産 = *1,000

R_{it} = ファンド売却前の税引後リターン

R_{bt} = 手数料調整後または SEC 基準調整後のリターン



相対資産は、税引前リターンと税引後リターンの両方を直感的かつ的確に測定する手法です。相対資産の計算結果を見ると、税引前の価値（経費および手数料をすべて控除後）と比較して、何パーセント価値が減少したかを確認できます。相対資産は、実際にはパーセントを修正した指標であるため、10で除せば標準的なパーセント形式で表せます。

たとえば、あるファンドで過去3年間におけるリターンがマイナス9.69%で、税引後リターンが11.09%となった場合、税引前の価値と比較して、売却前のマイナス1.55%を課税による目減りと見なします。逆に言えば、当該ファンドは税引前の資産価値の98.45%を保持しています。

なお、相対資産は売却前と売却後ベースの両方で算出できます。投資家の視点で見ると、ファンド売却前の相対資産は、売却または換金する前に課税により目減りした金額の割合を算出したものです。売却後リターンは、売却時の実現損益を含めた課税により目減りした割合を算出します。Lipper Ratingsは、投資家は本質的には長期投資家であり、特定時点でのファンドの換金に関心の重点を置いていないと考えています。そのため売却前の相対資産は、あくまでもLipper Ratingsの租税効率を測る指標として使用しています。

算出方法および評価

Lipper Ratingsの租税効率評価は、ファンドの課税繰り延べ効果を、同分類のファンド・グループと比較して示します。租税効率の評価は、Lipper分類のうち、5本以上のファンドが存在する分類を評価対象とし、株式ファンドと債券ファンドの両方で算出されます（大型株コア、一般米国債など）。

格付けは毎月変更され、3年、5年、10年、さらに全期間の平均評価である「総合（Overall）」の各評価期間で算出されます。総合の数値は、3年、5年、および10年（データが存在する場合）における租税効率のパーセンタイル・ランクを均等加重平均して算出します。各分類の上位20%のファンドには「租税効率のLipper Leaders」、次の上位20%のファンドには「4」、中間の20%のファンドには「3」、その次の20%のファンドには「2」、最下位の20%のファンドには「1」の評価を付与します。

Lipper Ratingsの経費率（Expense）評価

概要

経費率指標は、主に投資アドバイザーおよび個人投資家向けの意思決定支援ツールです。ファンドの経費水準を、同様の手数料体系をもつファンド・グループと比較して評価するための指標です。

経費率は、投資家によるファンドの選定および分類指標として用いられることが多いです。（トータル・リターンやリスク調整後リターンなどの指標に加えて）経費率を見る理由の1つとして、経費が高くなると、総パフォーマンスの上昇によって相殺されない限り、ネット・リターンが低下し、低パフォーマンスにつながる事が挙げられます。

Lipper Ratingsの経費率評価では、その点を踏まえて、競合ファンド間での比較で経費を最小限に抑えたファンドを特定します。

これらのコストをファンドのリターンから直接差し引くため、経費控除前のリターンが同一のファンドが2本存在する場合、コストの低い方のファンドが投資家に高いネット・リターンをもたらすことになります。

評価手法

各ファンドの評価にあたっては、Lipperはまず個々のファンドが属する分類を確認し、その次に手数料体系（各分類内のファンドを、手数料なし／購入時手数料、解約時手数料／定率手数料ロード、および機関投資家向け手数料の3種類のいずれに分類）を見ます。

次に、同分類のファンド・グループ（同様の分類および手数料体系のグループ）との比較で評価を行い、特定の分類および評価期間において経費率が最小のファンドを経費率のLipper Leaderに格付けします。

算出方法および評価

Lipper Ratingsの経費率評価は、同様の手数料体系をもつファンド・グループと比較して、経費を低く抑えているファンドを示します。経費率の評価は、Lipperグローバル分類のうち、5本以上のファンドが存在する分類を評価対象とし、株式ファンドと債券ファンドの両方で算出されます（大型株コア、一般米国債など）。格付けは毎月変更され、3年、5年、10年、さらに全期間の平均評価である「総合（Overall）」の各評価期間で算出されます。「総合」の評価は、3年、5年、および10年（データが存在する場合）の期間における経費率のパーセンタイル・ランクを均等加重平均して算出します。各分類の上位20%のファンドには「経費率のLipper Leaders」、次の上位20%のファンドには「4」、中間の20%のファンドには「3」、その次の20%のファンドには「2」、最下位の20%のファンドには「1」の評価を付与します。

免責事項

販促資料の開示にあたっては**必ず**本免責事項を明記いただきますようお願いいたします。

Lipper Leadersのファンド評価は、いかなる管轄区域内の事業体の有価証券に関する投資助言、売却の申し出、または購入申込みの勧誘を行うものではなく、またそのように意図したものではありません。したがって、本資料の情報に基づき投資判断を下すべきではありません。Lipper Ratingsの評価は情報提供のみを目的としたものです。リフィニティブ・リップパーが提供する情報は、米国（または米国内の特定州）内あるいは米国民に向けて、または米国民の負担もしくは利益を目的として、提供、販売、または受け渡しが行われていない有価証券に関連している場合があります。リフィニティブ・リップパーは、お客様が当社から取得する情報の正確性、信頼性、または完全性に関し、何ら責任を負っておりません。また、当社は、リフィニティブ・リップパーまたはその関連会社のいずれかから取得した情報に起因するいかなる損失または損害に対しても責任を負いません。

Refinitiv（リフィニティブ）はLSEG（ロンドン証券取引所グループ）のグループ企業として、金融市場のデータとインフラストラクチャを提供する世界有数のプロバイダーです。Refinitivの売上高は62.5億ドルに上り、190カ国で4万余りの企業・機関、40万を超える利用者を擁し、世界全体で金融にかかわる市場参加者を支えています。お客様が自信を持って重要な投資や取引、リスク判断を実行するために必要な情報、インサイト、テクノロジーを提供しています。独自のオープン・プラットフォームとクラス最高のデータおよび専門知識を組み合わせることで、選択と機会に結び付け、お客様とパートナーの皆様のパフォーマンス、革新、成長を促進してまいります。

Web サイト：refinitiv.com/ja

お問い合わせ先

URL：refinitiv.com/ja/ask

電話：03-6743-6515

 @RefinitivJP  @RefinitivJP

An LSEG Business

REI260174/9-20

REFINITIV®
